

「住んで良かった」と

思える「まち」に・・・

地域に根ざした人権活動—草の根からの「つながり」と「広がり」—

地域に根ざした活動って？

「地域」は、わたしたちが暮らす一番身近な場所です。そして、それぞれの地域で多くの人が、「住んで良かった」と思える「まち」を目指して、さまざまな活動に取り組んでいます。そんな地道な活動が、「人権」を具体的なものにしていきます。地域を良くしていきたいという活動こそが、それぞれの地域に「人権」を根づかせているのです。

大阪府でも、そういう人権活動——自らの意思で、▽営利を目的とせず、▽不特定多数の市民のために、▽地域に根ざして、展開されている活動を、もっと育てて広げていきたいと、「大阪府草の根人権活動賞」を設置しています。それでは、その「草の根人権活動」とは、どんな活動なのでしょう。

つけて、困っている人を応援しています。

この活動は、阪神・淡路大震災の被災者を団地の空家に受け入れるために掃除などの活動を行ったメンバー30人が中心となって、そのときのボランティアの力を、地域のために役立てたいという思いから、誕生しました。以来7年、現在、メンバー160人というサークルに育っています。

「泉丘公民館」は市立泉丘小学校の敷地内にあるコミュニティルームを拠点としています。そして、公民館のなかの「ボランティアサークル」は、子どもと大人、学校と地域との架け橋となって、周囲の誰かのほんのわずかな力を必要としている人たちのために、できる人ができるかたちで参加するボランティアの輪を、どんどん広げています。

支えあい、助けあえる「まち」へ…

「ボランティアサークル」の活動は、小学校と深くかかわっています。地域の人が日常的に学校を訪れ、楽しみながら出会い・つながる場として開いている「ゆうゆうサロン」に集う人たちのなかから、自然に生まれてきました。学校の授業参観の時の一時保育をはじめ、放課後の工作教室、土曜日の料理教室など、地域の人が得意の技を活かして子どもとふれあっています。高齢者による手づくりコーサージュは、毎年6年生への卒業式のプレゼントとして贈られ、とても喜ばれています。

そうぞう

2

2004.3*No.8



「大阪府草の根人権活動賞」の表彰式

ある小学校区域での取り組み

できる人が、できるかたちでボランティア

豊中市にある泉丘公民館ボランティアサークルは、地域の人が困った時の「相互応援」——単に「やってあげる」だけではなく、高齢者や障害者にも「できる活動」には加わってもらうこと——を柱として、「おねがい!」「たすけて!」と、気軽に声をかけあえるやさしい地域をつくっています。「腰が痛くて外出できない。買い物してほしい…」「車イスで病院へ一緒に行って…」など、連絡を受けるとすぐに自転車でかけ



「ボランティアサークル」の活動～土曜日の料理教室

そして、ある時「車イスで行ける歯医者さんはありませんか？」との問い合わせを受けたことから、地域の医院と道路のバリアフリーの状況を調べた「泉丘バリアフリーマップ」を作成し、地域のすべての世帯に配布しました。評判がよかったことから、さらに第2弾を企画。地域の小・中学生と一緒に、校区内の道路、駅、公園、医院、スーパーマーケットなどのバリアフリーの実状を調査し、「ゆうゆうマップ(泉丘バリアフリーマップⅡ)」を作成しました。この活動では、子どもたちに自分の地域の良い点・悪い点を知ってもらおうとともに、他者への思いやり＝優しい心をはぐくむこともできました。

代表の水谷徳子さんは「地域にはいろんな人材がいます。泉丘が大好きで、人と人との横のつながりを大切に、何かあったら支えあい、助けあえる。そんな、すてきな「まち」にしたいという思いの人が、たくさん集まってくれるから、ボランティアサークルの活動が広がっています」と楽しそうに話してくれました。

みなみかわちちい き とりく 南河内地域でのある取り組み とも い がいこくじん きょうどうさきょう 共に生きる外国人との共同作業

富田林市には「地域の国際交流を進める南河内の会(モザイク)」があります。遠い海外との交流ではなく、南河内という地域に根ざした活動をしながら、そこに住む外国人の人権について考え、文化や歴史などの違いを認めあい、共に生きる地域づくりを目指しています。

設立は、ある芝居を上演したいという活動がきっかけでした。それは、差別と貧しさを乗り越えてきた半生を在日韓国・朝鮮人2世の方が自ら演じ、差別や偏見の克服を訴えるものでした。上演を呼びかけた10人のもとに、外国人問題に関心を持った人が集まり、地域に住む外国人をメンバーに加えて誕生しました。

一つひとつの個性が光り輝きながら美しい絵模様を描いているような社会をつくり出したいとの思いから、愛称を「モザイク」と名づけ、外国人と一緒に共同作業をしています。設立して10年、現在のメンバーは約60人になっています。

ひと 「人のつながり」が交流を広げる「まち」へ…

「モザイク」は、毎週公民館で開いている「日本語よみかき教室」を手伝ったり、料理を通じて外国の文化にふれあう会を開いたり、いろいろな活動をしています。

そのなかで、「子どもモザイク」は、外国人の子どもを地域でどう育てるべきかと真剣に考えて、取り組み始めた活動です。外国にルーツを持つ子ども

ちとその家族、そして、日本人の子どもたちとその家族50数人が参加しました。地域にできた「人のつながり」を、子どもたちにまで広げています。

「モザイク」の活動の輪は、もっとさまざまな広がりを見せています。その活動やアイデアがきっかけになって、朝鮮半島の太鼓・チャングのおもしろさに魅了された人により、チャングを楽しむグループ「ポムソリ」が結成されました。また、さまざまな国の家庭料理を楽しむ「パジルの会」もできています。そして、富田林市に設置された「とんだばやし国際交流協会」も、「モザイク」の活動が原点です。

代表の蔵田和子さんは「自分の住むまちを、外国人も住みやすいようにしたい。そのためのアイデアをだせば、それを受けとめてくれる人がいます。その人でなければできないことで、人と人との出会いの場ができる。そして、理解を深めあう。私たちの活動でそのようにして、人が集まり、理解しあうことをサポートしていきたいと思います。このまちに住んでいるものとして、『住んで良かった』と気持ちよく思える地域をつくっていききたいのです」と話してくれました。



「モザイク」の活動～「子どもモザイク」

●取材を終えて

「住んで良かったと思えるまちに…」、人権に関する活動をされている方々の願いです。

わたしたちは一人ではなく、それぞれの地域の中で多くの人と共に生きています。だから、何か困ったことがあり、一人で解決できなければ、誰かがそのお手伝いをするということは、当たり前のことなのかもしれません。

そう考えると、地域社会の中で、わたしたちにできることは、いろいろとあるはず。決して特別なことではなく、他者とふれあいながら過ごす中にある当たり前のことが、地域の「人権」を創るのだと…その実現に向けて、肩ひじを張らずに実践されている